

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2014年
12月24日(水)
第122号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

第二回 「保育を楽しむための連続講座」に52人 『職場の人間関係』で豊かな交流

12月15日にラパスホールにて第二回「保育を楽しむための連続講座」を行い、52名の参加がありました。若手保育士が中心となって結成された運営委員会で、今悩んでいることや気になっていることを出し合い、講座のテーマや内容、講師などを話し合いました。

第一回目は『保育を楽しもう』がテーマでしたが、第二回目の今回は『職場の人間関係』をテーマにお話ししていただき、その後、交流をしました。お話しくださった方は、実践女子大学非常勤講師、元公立保育園園長、全国幼年教育研究協議会世話人の柿田雅子さんです。公立保育園に勤務していたときの体験談を中心に、職場を円滑にして楽しく働けるような心がけについてお話ししていただきました。柿田さんの優しい口調で、会場は和やかな温かい雰囲気になっていました。

この講座を受け、6人程の少人数のグループに分かれて交流を行いました。自己紹介をし、講座の感想と「人間関係」について悩んでいることや感じていることをそれぞれ話し合いました。「柿田さんのお話を聞き、『自分にはないものが人にある。違いがあるから面白い。違いがあるから輝ける』というフレーズに共感をした」、「自分にはない良い所を見つけ、尊重したり、思いやることの大切さを学んだ」、「子ども・保護者と真剣に向き合ってきた柿田さんのように、常に素直に前向きに正直な気持ちで仕事をし、生きていきたいと感じた」との感想や逆に「色々な考えの人がいるから人間関係を築くことは大変と感じた」との感想もありました。また、グループ討議の中で「他の先生

方の話を聞いて、同じような思いを抱えている人がいるということに、少し気持ちが楽になった」、「自分の置かれている環境についてなかなか園では吐き出すことができない思いを聞いてもらえて良かった」、「他区の方々や経験年数が違う方々と話ができて刺激を受け、良い機会になった」という感想が多く聞かれました。また、もっと話す時間がほしかった、続編を希望したい、という意見も聞かれ、一人で悩まず、様々な方と交流を図ることの大切さを感じられる時間となったようです。

次回の連続講座は1月16日(金)19時~21時に、東京労働会館4階 A会議室にて「あつまれ、男性保育士！」という企画です。普段なかなか話せない男性保育士で語り合ひましょう！男性保育士の思いや話を聞いてみたい女性保育士の方々の参加もお待ちしています。

【アンケートの中からいくつか感想を紹介します】

20代女性・保育士歴2年目「年齢層も様々だったので日頃自分が悩むことを聞いてもらい、色々な答えをもらうことが出来て良かった。『こんな考え方もあるのか！』と思うと、やはりコミュニケーションの大切さやこうした場を設けてもらうありがたさを感じた」

20代女性・保育士歴5年目「色々な人間がいて、認め合うことは大事だと感じた。人間関係について悩んでいる方々がたくさんいて勉強になった」

30代男性・保育士歴12年目「園によって様々な問題、悩みがあるんだと感じました。『子ども』に関わりた方が集まったのに、同じ人に対してもっと支え合える場が作れないのかと感じ、園は違えど支え合える関係が作れたらと思いました」

【裏面へ】



「保育所ふやして！第2回目黒保育アクション」 100人でパレード、対区要請

目黒では、「保育所ふやして！第2回目黒保育アクション」が昨年に引き続き行われ、100人近い保護者や子どもたち、公立・私立保育所、認証保育所の職員、区民が目黒区役所までパレードを行いました。パレード終了後は、目黒区に要請書を手渡しして要請しました。

中目黒駅からほど近い広場に集まり、簡単なゲームをした後サンタやトナカイなどの仮装や色とりどりの風船、プラカードを持ちパレードの出発。若いお父さんやお母さんがベビーカーを押したり子どもたちと手をつなぎ、大きな声で「保育所増やして！」「待機児解消して！」「保育を守って」と元気にアピールしました。区役所近くの公園までいくと小学生が4、5人いてアピールの声を聞いて「保育園が足りないの？」と関心を寄せていました。

パレード終了後、総合庁舎エントランスにて保育課長に「待機児解消を求める要請書」を手渡ししました。参加した保護者から「転居してきて保育事情の厳しさに愕然とした」「下の子は認証10か所以上あつたが入れずにいる。認可等に預けるために、高額のベビーホテルなどに入れ、2人で月20万円の保育料。保育園に入れるために働いている状態」「妊娠中から保活をしたが入れないでいる。早く職場復帰したいが、収入がない状態が続いている。安心して預けられる保育園を真剣に増やしてほしい」等切実な実態を訴えました。保育課長からは保護者の切実な声を受け止め、認可保育園の整備に努力していきたい旨のコメントがありました。

引き続き保育関係団体や地域住民とともに「待機児解消」を区に要請していきたいと思います。

世田谷『“教えて上村さん 子ども・子育て支援制度のあれこれ”懇談会』に34人の参加

12月13日(土)おひさま保育園にて世田谷区の上村副参事を招き懇談会が開催されました。これは、『9月20日(土)保育のつどい in 世田谷』の参加者から、「新しい制度について、よくわからない…」「詳しく話を聞いてみたい」といった感想が寄せられ、ざっくばらんに話せる場を作れるといいね！といったことから開催されました。

当日は、寒い中でしたが3組のお子さん連れやこれから赤ちゃんが生まれる若夫婦など、34人が参加し、副参事の子ども・子育て支援新制度の説明を伺ったあと、活発な質疑応答がありました。

参加された保護者の皆さんからは、「現在我が子は保育室に通っているが、認定をもらう必要はないという理解でいいのか？」「入園の申し込みの際、指数が大きく変わることはあるのか？」といった具体的な質問が多数出されました。

また、「保育者の給料をもっと上げてほしいと思っているが、このままでは上がらないのでは？保育の質を守ることは、保育士さんを守ること！！ぜひ処遇改善してほしい」といったうれしい意見も出されました。私立保育園の職員からは、「豊かな保育をするためにも、人材確保は不可欠だが、現在の賃金では若手男性保育士も一生働くにはやっていけない…と職場を去る人も出ている。公私格差是正をお願いしたい。といった切実な意見も出されました。

さらに、これまで乳児の保育を増やしてきた結果現在3歳児難民（3歳児が保育園に入れない状況）が深刻化していることなども話題になりました。

上村副参事も、「公立が多いことは世田谷の強みだと考えている」と話していました。世田谷には、保育の質のガイドラインがあります。行政側と保育の質について語ることでできる恵まれた状況にある世田谷だからこそ、待機児は全国1位だけれど（ですが）質の高い保育を保っていききたい！と参加者一同、心を一つに誓い懇談会を終了しました。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】